

# もっとボートレースを PROPEL



特集

## スポーツとしてのボートレースの魅力

**Speed & Power**

水面を熱くする圧倒的なスピード感、一瞬も目が離せない6艇の競演

**Technique**

状況判断、駆け引き、操縦技術、ハイレベルのテクニックがしのぎを削る

**Athletes**

全てを賭けて真剣にレースに臨むアスリートたち



# スポーツとしての ボートレースの魅力

ボートレースを語る上で欠かせないのがスポーツ性。スピードとパワー、テクニック、  
そしてアスリートであるボートレーサー。  
今回の特集では、スポーツとしてのボートレースの魅力に迫ります。

写真：渡部薫 / 講談社 (P2-7、P9)、吉野久 (P8)





スピード&パワー

Speed & Power



テクニック

Technique



アスリート

Athletes

Speed & Power

水煙  
ボートレーサーは激しい水しぶきを  
あびながらゴールを目指す



# 水面を熱くする圧倒的なスピード感、 一瞬も目が離せない6艇の競演

一筋の引き波を残し、水煙を上げながらジェット機のように走り抜けるモーターボート。  
ボートレースの醍醐味は、その圧倒的なスピード感にあります。  
ボートレーサーは100分の1秒単位の瞬間的な世界で日々闘い続けています。

滑走  
最高速度は時速約80km。体感速度は100kmに達する  
と言われている。直線では、「走る」というより「滑る」  
という表現がふさわしい





100分の1秒の世界で競い合うボートレース



一瞬の判断が勝負を分ける



観客を魅了する  
スタートの瞬間

## 一瞬の判断が勝負を分ける モータースポーツ

勝利を目指して6艇が激しくしのぎを削るボートレースは、何と言ってもそのスピードが大きな魅力です。ボートレーサーが操るボートの最高速度は時速約80kmにも達し、その姿はまるで水面を高速で滑走するジェット機のような。スタートは独特のフライング方式で、大時計がカウントダウンする間に後方からボートを加速させ、秒針が0から1秒を指す間にスタートラインを通過しなければなりません。0秒より早ければ「フライング」、1秒より遅ければ「出遅れ」として返還欠場になります。風向き・風速・潮流などの影響はその難易度をいっそう高めますが、一流レーサーはおおむね0.1秒台以内という驚異的なタイミングでスタートラ

インを通過します。これはボートレーサー養成訓練機関である「やまと学校」での1年間の訓練を皮切りに、プロレーサーとしてデビューしてから何千回、何万回とスタート練習を繰り返すことで体得した技能の証です。

スタート直後には、レースの最大の勝負どころとなる第1ターンマーク（以下1マーク）への進入ルートの判断を迫られます。スタートラインから1マークまでの距離はわずか150m。周囲の他艇の状況を見定め、自分のコース取りを決めてハンドル操作を始めるまでの猶予はわずか4~5秒です。その操作が0.1秒遅れるだけでターンマークへの進入ルートが約2mずれ、致命的なミスにつながるおそれがあります。コマ数秒という一瞬に、いくつもの勝敗の分岐が凝縮されているボートレースは、まさに100分の1秒の世界で6艇が競い合うモータースポーツです。



## 宙を舞う

腰を上げ、体を傾けるモンキーターン。  
その瞬間ボートは宙に浮かんだ

# 状況判断、駆け引き、操縦技術、 ハイレベルのテクニックがしのぎを削る

レースで勝利をおさめるためには、ボートを意のままに操る技術や相手との駆け引きを制する戦術など、多彩なテクニックが必要です。これらのテクニックはレーサー間で共有され、ベテランから若い世代へと受け継がれることで、ボートレースというスポーツは進化を続けています。

## 勝利を呼び込む複合的なテクニック

スタート直後の1マークにおける6艇によるせめぎ合いは、ボートレース最大の勝負どころです。減速してインから「差し<sup>※1</sup>」を狙うか、スピードを落とさずにアウトから「まくり<sup>※2</sup>」を狙うかなど、先行艇を抜くためや後続艇に抜かれないための複雑な駆け引きを瞬時に選択。しかも、天候やレース場ごとに異なる水面など多様な条件が絡み合うボートレースでは、全く同じレース展開というのはありません。周辺状況を把握する視野と動体視力、そして正確にボートを操る能力など、複合的なテクニックがプロのボートルーサーには求められるのです。また、プロペラの調整やモーターをチューンアップする整備技術も欠かすことのできない重要な能力です。例えばモーターは水温によってパワー

が変化し、プロペラとの相性にも影響します。レースで勝つためには、季節や時間帯、海水か淡水かなどに合わせてプロペラの形状を調整するメカニックとしての能力も求められるのです。

このような高度な知識や技術をレーサーが独力で会得するのは困難なため、通常は経験豊富な先輩レーサーに教えてもらいます。こうして自分が学んだテクニックは、惜しむことなく後輩へと伝授していきます。このように個人競技でありながら、技術を仲間内で継承していくボートレースの伝統。こうした文化も、他のスポーツには見られない大きな魅力です。

※1 差し：2から6コースでスタートしたボートが、内側のボートを先に行かせた後、空いた内側を抜けていく戦法。

※2 まくり：2から6コースでスタートしたボートが、スピードを落とさず内側のボートを外側から追い抜く戦法。

## 動きを読む

中央の選手の目に注目。隣の選手の動きを見ているようすが分かる。もちろん、背後の選手の動きも全身で感じている



相手に先んじるため  
ターンマークギリギリのラインを狙う



知識や経験はライバル同士であっても共有し、お互いに高め合っていく



角度、厚さなどコンマ数ミリ単位でプロペラを調整する。  
わずかな違いが走りに大きな差を生む

## 全てを賭けて 真剣にレースに臨む アスリートたち



疾走するボートを自在に操るボートレーサー。卓越した操縦技術はもちろん、アスリートとしての体力や精神力も強く求められます。そんなボートレーサーが持つアスリートとしての魅力やボートレースとカーレースとの共通点などについて、カーレースの世界で長年活躍してきた元レーシングドライバーの土屋圭市さんにうかがいました。

### カー&ボートレーサーに共通する 一瞬の判断力や厳しい体重管理

「なんてカッコいいんだ!」。土屋さんはボートレースを初めて目にした時に、そう感じたそうです。「スタートで加速して、直線から一気にターンマークに飛び込んでいくシーンはすごい迫力だと思いました。特に駆け引きをしているレーサーの“呼吸”を想像して、魅了されました」と土屋さん。サーキットの路面とボートレース場の水面という違いはありますが、ボートレースとカーレースの間には多くの共通点があるといいます。「我々ドライバーはタイヤと路面で会話をしながら走るといいますが、それはボートレースにおけるプロペラと水面との関係に似ています。他にも、一瞬の判断力や厳しい体重管理、風雨の影響を読み取る技量など、両者に通じる部分は多いと思います」。例えばカーレースでは、ドライバーの体重が増減すると車のバランスが変わってしまうため、セッティングがやり直しになる厳

しい世界。土屋さんも現役時代は体重管理に注意を払い、56kgを維持し続けたそうです。一方、異なる点は「カーレースではドライバーは運転だけ、メカニックは整備だけと役割分担が明確ですが、ボートレーサーは自身でモーターやプロペラの調整まで行うところが素晴らしいですね」と土屋さん。

### カーレースのドリフトと似ている ボートレースのターン技術

スピードに乗ったターンはボートレースの大きな見所ですが、その技術は土屋さんが得意とするドリフトに酷似しているそうです。「ターンマークへの進入角度が大切で、角度をつけすぎるとスピードが落ちて立ち上がりの加速が遅れてしまいます。これはプロのカードライバーが行うドリフトとほとんど同じです」とのこと。ドリフトは左手でシフトレバーとサイドブレーキを駆使してスピードを調整しな



ベテランも若手も関係なく、ボートの引き上げなどは一致協力して行う



共通点の多いボートレースのターンとカーレースのドリフト



写真提供：(有)ケイワンプランニング



土屋さんを引きつけた、勝負にかけるボートレーサーの眼差し

# 土屋 圭市

Keiichi Tsuchiya

PROFILE ◆ 1956年、長野県生まれ。ドリフト走行を多用するドライビングスタイルから「ドリキン(ドリフト・キング)」と呼ばれる。全日本GT選手権、ル・マン24時間レース、スーパー耐久シリーズなど数々のレースで輝かしい戦歴を持つ。2003年、シリーズ開催中に衝撃の引退を表明。2005年以降はARTA監督、エグゼクティブアドバイザーとして、今なお、日本中のサーキットを走り続けている。その他、テレビ出演、雑誌への執筆など、各方面でその才能を遺憾なく発揮し幅広く活動中。

がら右手でハンドル操作しますが、ボートレースのターンも左手のスロットルレバーで速度を微調整しながら右手でハンドル操作する点が同じです。そのため「彼らのしていることは手に取るように分かります」と土屋さん。テレビ中継で初めて解説を務めていた時に、1マークで内側の艇が進入角度をミスした際、「思わず『あっ!』と声を上げてしまいました。つい自分が乗っているような気持ちになってしまいましたね(笑)」と楽しそうに振り返ります。

## 様々な存在を背負う プロアスリートの眼差し

ボートレーサーの人間性にも関心があるという土屋さん。彼らの「目」は、まさにプロのアスリートの眼差しだと思います。「生活、家族、ファンなど、背負っているものは重いがきれいな目をしている。プロのカードライバーでもあの目を持っているのは一握り。それをボートレーサーは全員

が持っています」と感心する土屋さん。それは命を賭けて真剣にレースに臨んでいる者だけにしかない表情なのだそうです。また、「礼と節」に代表される立ち振る舞いについてもプロ意識の高さを指摘します。ピット内では若手はもちろん50代、60代の大ベテランまで、快活に挨拶するのが当たり前。また、ボートの引き上げなどでライバルを手伝ったり、後輩に技術を伝授したりと、カーレースの世界ではほとんど見られない光景です。

「私は現在、若手ドライバーの育成に関わっていますが、『礼と節』やプロ意識を学ばせるために生徒たちを『やまと学校』で研修させたいくらいです」と話す土屋さん。こうしたレーサーの一面はもっと多くの人々に知ってほしいそうで、「私自身、ボートレーサーのアスリートとしての生き様や人生の背景にとっても興味がありましたが、それを知りたいファンの方は多いと思います」と熱く語っていました。

# Athletes

# ボートレーサーを目指し 歩み始めたアスリートたち

2011年10月6日、福岡県柳川市にある唯一のボートレーサー養成訓練機関・やまと学校にて「第111期選手養成訓練入学式」が行われ、男子24名、女子7名の計31名がボートレーサーに向けての第一歩を踏み出しました。この中には中学から大学等のスポーツ活動において優れた実績を持ち、日本モーターボート競走会の各支局・支部から推薦されたスポーツ推薦枠の試験に合格した13名（男子10名、女子3名）と、国際大会等で好成績を残した特別枠の試験に合格した1名（男子）が含まれています。今回のAll about Boat Raceでは、スポーツ推薦枠や特別試験枠で合格し、2012年11月のプロデビューを目指す4名の訓練生に、他競技を経験したアスリートの目から見たボートレースの魅力、そして、将来に向けての抱負を語ってもらいました。

## Boxing “あきらめない強い気持ち”で 水上の格闘技に挑む ———— 金光 佑治



日本ミニマム級  
王座決定戦



けがでボクシングを引退しなければならなくなった時に、ジムのトレーナーに勧められたのがボートレーサーを目指すきっかけでした。初めてボートレースを見た時は、ターンマークでの攻防やモーター音、歓声に圧倒されました。同時に安全面など様々な面に配慮しながらの真剣勝負にスポーツマンスピリットを感じました。また、ボクシングで鍛えた動体視力や身体能力をボートレースなら生かせるのではと思いました。ボクシングの試合ではいつもピンチの連続でしたが、絶対に勝負をあきらめないという気持ちで闘ってきました。ボートレースにも強い気持ちで挑み、勝てるレーサーになっていきたいです。

金光 佑治 / 1984年5月14日生まれ。身長162cm、体重52kg。2000年、16歳で六島ジムに入門。2003年、19歳でプロデビュー。プロ10戦目で日本ミニマム級ランキング入りを果たし、2009年3月、日本ミニマム級王座タイトルを獲得。しかし試合後、硬膜下血腫が発覚し、引退を余儀なくされる。やまと学校には2010年春に一度合格しているが、両眼網膜剥離と診断され、入学を断念。今春、再受験し見事合格した。

## Baseball これまでのプレースタイルを ボートレースにも活かす ———— 鈴木 亮

ボートレース好きだった父の影響で、子どもの頃「ボートレーサーになりたい」と思っていました。その後は、野球選手が一番の夢になりましたが、野球を引退する時「心も体もまだまだやれる。もう一つの夢であるボートレーサーに挑戦しよう」と決意しました。ボートレースは野球と同様、ボディバランスが求められるスポーツだと思いますし、野球で鍛えた体幹の強さを活かしていきたいです。また、足を使ったプレーが自分のスタイルなので、ボートレースでもスピード感のあるレースをしていきたいと思っています。プレッシャーのかかる場面でも結果を出し、記録にも記憶にも残る選手を目指します。



大学時代

鈴木 亮 / 1984年4月18日生まれ。身長171cm、体重54kg。小学校1年生から野球を始め、東邦高等学校（愛知）時代は、春夏合わせて2度の甲子園出場を果たす。国際武道大学では2006年6月、全日本大学野球選手権大会ベスト8。その後、王子製紙株式会社に入社。2008年8月、都市対抗野球大会の準優勝に貢献した。主なポジションはショートとセカンド。打順は1番または2番。中学校と高校の教員免許（体育）を取得している。



都市対抗野球大会。左から3番目が本人

# Rugby 相手の動きを読む力を 発揮する

関野 龍

大学でもラグビーを続けるかどうか迷っていた高校3年生の時、同級生に「一緒にやまと学校を受験しないか」と誘われたことがボートレーサーを目指すきっかけでした。体格が大きいほうが有利なラグビーに比べ、小さいほうが有利になるという点に引かれましたね。ラグビーは相手の動きをよく読むことが大切です。この点はボートレースも同じですし、自分の強みだと思っています。勝負には絶対に負けたくありませんし、また、ラグビーのチームメイトが応援してくれているので、期待を裏切らない強い選手になりたいです。



関野 龍 / 1992年12月10日生まれ。身長158cm、体重53kg。6歳からラグビーを始めた。東福岡高等学校(福岡)ラグビー部で、2010年3月、全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会優勝、同年12月、全国高等学校ラグビーフットボール大会優勝を果たしたほか、2010年、福岡市・釜山廣域市高校生スポーツ交流大会に福岡県選抜メンバーとして出場した。ポジションは俊敏さと高度なパスワークが求められるスクラムハーフ。



# Football 将来のために今必要なことを 考えていく

竹井 貴史



左の列、前から3番目が本人



竹井 貴史 / 1991年7月3日生まれ。身長169cm、体重52kg。小学校4年生からサッカーを始める。地元のクラブチームを経て、東福岡高等学校(福岡)サッカー部時代の2009年8月、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)出場、同年9月、高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会出場、2010年1月、全国高等学校サッカー選手権大会出場と、数々の大きな大会を経験する。ポジションはミッドフィルダー(左サイド)で、ドリブルでの突破を得意としていた。

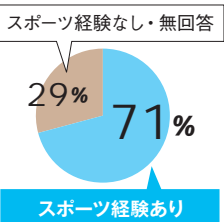
小さい頃から父にボートレース場に連れていってもらい、ボートレーサーに憧れていました。モンキーターンが格好いいと思っていましたね。高校1年生の時、姉(竹井奈美選手)がやまと学校に合格したことで、本格的にボートレーサーを目指すようになりました。サッカーでは一瞬の判断力や適応能力が磨かれましたが、これはボートレースでも必要な能力だと思っています。入学したら、今何をすべきかを常に念頭に置いていきたいです。やまとチャンプを目指すのはもちろん、選手になってからのことを考えて毎日を送りたいと思います。

## ボートレーサーのスポーツ経験

バランス感覚、瞬発力、動体視力など、身体能力の高さが求められるボートレーサー。現役の選手の多くは過去に様々なスポーツを経験しています。

ボートレーサーの約70%が何らかのスポーツ経験あり

約70%の選手が小学校～大学にかけて、スポーツクラブ、部活などでスポーツを経験。県大会はもちろん、全国大会に出場経験のある選手も数多くいます。



## 男子選手は野球、女子選手はバレーボールが人気

◆過去に経験したスポーツランキング(複数回答)

男性 (対象1,377名)		女性 (対象166名)	
1位 野球	249名 (18.1%)	1位 バレーボール	27名 (16.2%)
2位 サッカー	129名 (9.4%)	2位 バスケットボール	22名 (13.3%)
3位 陸上	69名 (5.0%)	3位 ソフトボール	19名 (11.5%)
4位 剣道	52名 (3.8%)	4位 陸上	17名 (10.2%)
5位 バスケットボール	45名 (3.3%)	5位 水泳	14名 (8.4%)



**日本財団**  
The Nippon Foundation

● 日本財団に関する情報はこちらから

⇒ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>

● 日本財団会長 笹川陽平ブログ

民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。年の三分の一を海外活動に充て、海外情勢や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。



⇒ <http://blog.canpan.info/sasakawa/>



## BOAT RACE 住之江

ボートレース住之江は、ほぼ毎年末に「賞金王決定戦」が開催されるボートレースのメッカです。春先から秋口にかけては「住之江シティーナイター」を開催。最終12レースの出走時間は20時30分前後で、交通の便も良く仕事帰りに気軽に立ち寄れます。場内ではアクアコンシェルジュがボートレースのルールや舟券の買い方などを教えてくれるので初心者でも安心。「来福」が販売している特製麺を使用した焼きそば(300円、大盛 350円)は大人気です。

ADDRESS ● 〒559-0023 大阪府大阪市住之江区泉1-1-71

ACCESS ● 徒歩：地下鉄四つ橋線住之江公園駅より約3分。

車：阪神高速堺線住之江ランプより約3分。

ボートレース住之江のマスコットの「ジャンビー」。住之江のプールに生息する6頭のイルカです。



BOAT RACEは、JOC及びオリンピック日本代表選手団を応援しています。

BOAT RACEは公益財団法人日本オリンピック委員会(略称:JOC)に協賛し、オリンピック日本代表選手団の育成・強化を支援するとともに、JOCマークやスローガン「がんばれ! ニッポン!」等を広告・宣伝などに使用し、ロンドンオリンピックに向けて国内の気運を大いに盛り上げてまいります。



BOAT RACEは、JOC及びオリンピック日本代表選手団を応援しています。



◆ 「ISO/IEC27001:2005」を認証取得

BOAT RACE 振興会は、2010年7月25日付で、全部門を対象とした情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際認証基準「ISO/IEC27001:2005」を認証取得いたしました。



〒108-0073 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館 TEL.03-5232-2511 FAX.03-5232-2519

BOAT RACE 振興会HP <http://www.boatrace-pr.jp/>

BOAT RACE オフィシャルweb <http://www.boatrace.jp/>